

発達障害の 理解と支援

Q 発達障害って何ですか？

「頭は良いのに空気を読むのが苦手」「アイディアは豊かなのに整理整頓が苦手」「興味のあることには集中できるけど、やりたくないことは参加できない」そんな「気になる子」があなたの近くにいませんか？発達障害とは、「成長の過程で明らかに行動やコミュニケーションの障害」と定義されており、その中の代表的な疾患として自閉症スペクトラム(ASD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)などが挙げられます。

Q どのくらい存在しますか？

近年ではメディアで目に触れる機会も多く、広く知られた概念となってきましたが、その原因については未だ多くは不明とされています。遺伝要因、胎児期の保健状態、感染症、成育環境など多因子の関与が考えられています。

日本の人口の約10%が発達障害に該当するとも言われますが、正確な人数は分かっていません。2012年の文部科学省の調査では、全国の通常学級に通う小中学生の6・5%が発達障害の

Q 発達障害の子は、何に困っていますか？

可能性があるとの推計が出ています。

幼少期から現れる発達のアンバランスさによって、ある分野では優れた能力を発揮する一方、別の分野は極端に苦手であったり、他の人とは少し異なった独特の感じ方をするなどの特性がみられます。脳内の情報処理や制御に偏りが生じるためと考えられており、それらに起因して日常生活に困難をきたすことがあります。年長児になるとその特性により周囲になじめず不適

Q どういう場合に受診を
考えれば良いですか？

発達障害でみられる特性は誰でも多かれ少なかれ持っているものです。その特性が同年代の子供に比べて著しく、学習能力や技能の獲得の障壁となる、コミュニケーションの困難さから周囲と頻繁にトラブルになるなどの困りごとを抱える場合、周囲の理解と支援が必要になるため受診をお勧めしています。

Q 治療はありますか？
どんなものですか？

発達障害でみられる特性は誰でも多かれ少なかれ持っているものです。その特性が同年代の子供に比べて著しく、学習能力や技能の獲得の障壁となる、コミュニケーションの困難さから周囲と頻繁にトラブルになるなどの困りごとを抱える場合、周囲の理解と支援が必要になるため受診をお勧めしています。

〜おわりに〜

その人のもつ特性や環境に上手に向き合う手助けをすることが医療の役割であり、自己肯定感を損ねることなく、地域社会へ参加していけるよう支援することが、我々にできる治療だと考えます。

今月の先生



岐阜市民病院 小児科
大城一航 先生

- 専門分野
小児科一般、発達障害
- 主な資格、認定
日本小児科学会専門医
PALSプロバイダー
NCPR(新生児蘇生法専門コース)修了
- 卒業年
平成25年岐阜大学卒